



コロナ第8波のなか、かつての日常が早く戻ってきてほしいものと誰もが思っておりますが皆様いかがお過ごしでしょうか。にこにこワークショップは、今年度新たに林妙子先生・酒井早苗先生を指導員としてお迎えし、業務部新原幸さんの援助により予定通り無事48回終了することができました。昨年度まではコロナ感染拡大の為、一年半休止状態が続いておりましたので、これで少し前進かなとホッと胸をなでおろしています。ご存知のように、新型コロナウイルス感染症の拡大を始めとする国際社会の急激な変化の中で、子どもたちに与える影響はこれまでとは非連続的と言えるほど違い、社会も劇的に変化しております。お子様ばかりでなく大学生にとっても、オンライン授業を高校から経験している学生や自宅待機を経験ししばらく大学キャンパスに入れなかった学生もおりました。私自身も長い教員生活の中で初めての経験でした。大学生活の中で最も重要だと思われるクラブ活動を始めた学生同士の交流がまだまだ戻ってきていないことを日々感じる毎日です。自分の学生時代を思い出すと専門のピアノよりサッカーに熱中し(名芸大音楽学部ピアノ科在籍)、クラブの試合の帰り、顧問の先生に「ここが大学本部のある滝子幼稚園」と言われた記憶があります。自分が学生時代その時は「芸術大学なのになぜ幼稚園？」と不思議に思っていました。本学教員を続けさせていただき今になって分かったことですが、この大学の基は幼稚園であり保育が基盤をなしていることを知りました。そんな経験もあり、保育と芸術を結びつけたいという意識は人一倍強いと考えています。本学において学院創設者水野とし子先生を知っている数少ない教員として、教育学部と芸術学部との連携を強化する為、センター委員小田良枝先生の協力を得て、今年度は、芸術学部デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコース米山和子先生による「素材から見つかることは？」を開催し、11月には芸術学部音楽領域音楽ケアデザインコース森川泉先生による「音楽療法って何？」のミニミニ講座を開催し、そして最後に私が「クリスマスミニミニピアノコンサート」を開催しました。

私はコミュニティセンター長を任されて4年を迎えます。三歳児神話という言葉がありますが、子どもの成長にとって最も重要な時期はこの時期にあたります。実際こんな重要な時期の親子と関わるセンター長の役割を私が頂いていいのか悩む時が多くありました。旧短大時代の故種橋正徳学長が「保育の専門家なんか誰一人いないよ！自信を持ちなさい。きみが本当の専門家だよ」と仰って頂いたことがあります。その言葉を忘れずに専門の音楽を中心として芸術と保育の結びつきを考え、芸大の中にあるコミュニティセンターの色を濃く出していくことに私なりに努めてまいりました。

私の所属する保育学会では、「保育を創る、未来を拓く～保育学の創造をめざして～」をテーマに、予測困難で先行き不透明な未来を切り拓く主体的で創造的な保育のあり方について、実践的かつ理論的な側面から模索していきたい」ということを述べています。主体的、創造的な保育をということですが、私の担当した小学校音楽科指導法でこんなことがありました。学生一人一人模擬授業を行う前に「自分独自の授業を目の前にいる学生を対象に子どもに見立てて自由に作ってごらん！」と学生たちに問いかけすると、全員が令和の時代にあったプログラミングを交えた独自の授業を実践してくるのにはビックリした記憶があります。若い学生は順応が早く私たち以上に未来を切り開いていく力をもっていると実感しました。私にとって新たな発見につながるセレンディピティ(素敵な偶然に出会ったり予想外なものを発見すること)を経験できた一年でもありました。予測困難な時代に順応していく力は大学生よりも乳幼児の方が強いのではないのでしょうか？令和の時代に昭和の教育をするなどよく耳にします。この難関な時代こそ、主体的創造的な目で私たち大人が子どもの力を信じて優しく見守っていくことが大事ではないのでしょうか。

活動報告

《にこにこワークショップの一日》

9時30分 部屋の開放

「自由な遊び」

室内の気に入った遊具を使って自由に遊びます。2歳前後のお子さんは、お母さんが近くにいることで安心して遊びます。まだまだ、一人遊びや遊具を転々と移りながら遊びますが、自由に遊ぶ中で、自分のしたいことを楽しみ、同年齢の子どもとの出会いの中でいろいろな気づきをしていきます。好きな遊具でいっぱい楽しませてあげてください。



10時45分 片付け

片付けの時間を早めに知らせて、遊びのおしまいができるようにします。親子で一緒に片付けをします。



出席確認

子どもが自分の名前を呼ばれたら、手をあげたり、返事をしたり、その日に参加している子どもたちを知ることを目的としています。

11時00分

「テーマ遊び」

製作をする、集団遊びをする、体を動かす遊びをするなど、その日ごとにテーマを決めて活動しています。時期によって水遊びをしたり、戸外で遊んだり、おまつりをなどもしています。「お父さんと遊ぶ日」も行いました。いろいろな活動はお子さんにさせるのではなく、まずはお母さんやお父さんが楽しんでいただくことです。「みんなで一緒に」ということが、まだ難しい年齢です。お母さんやお父さんが楽しんで参加していただくことで、子どもはみんなですることが楽しいということを知っていきます。我が子が参加しないからと言って、あせらないでくださいね。



11時20分 手遊び・絵本・紙芝居

保護者の方には、当日の感想を書いています。



11時30分 終わりの時間

「ミニミニ講座」

2022年度 開催講座

名古屋芸術大学の先生方が、「テーマ遊び」の時間帯に専門分野の講座を開催してくださいました。

「素材から見つかることは？」11月2日（水）

米山和子先生（芸術学部デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコース）

- ◆お母さんたちは、生活に身近な「紙」を使い、切る、折るなどをして、平面の紙が様々に変化することを実際行って楽しみながら有意義な時間を過ごされていました。

【感想】

紙1枚で様々な形や使い方になり、いろいろな可能性が発見できました。



「音楽療法ってなに？」12月1日（木）

森川泉先生（芸術学部音楽領域音楽ケアデザインコース）

- ◆「音楽療法で用いる音楽がどのようにヒトの機能に影響を与えるか？」について説明を聞いた後、親子でフィンガーシンバルを鳴らして優しい音を楽しまれました。

【感想】

音楽療法という聞きなれない言葉でしたが、身近な歌など音を楽しみながら子育てをしたいと思いました。



「クリスマスミニミニピアノコンサート」12月21日（水）

星野英五先生（教育学部子ども学科・子どもコミュニティセンター長）

- ◆「クリスマスピアノコンサート」をテーマに、ピアノの生演奏を聴かせていただきました。一度は聞いたことのあるクラシックの曲、そしてクリスマスソングの曲に合わせて親子で鈴を鳴らして楽しい雰囲気の中、素敵な時間を過ごされていました。

【感想】

クラシック曲でしたが、子どもたちも結構集中して聴いていました。とても良い音色の生演奏のピアノを聴けてよかったです。スズも触らせてもらえて、子どももとても楽しんでいました。



学生の参加

自作の映像発表や楽器演奏、絵本の読み聞かせ、手作りおもちゃでの遊びなど、学生の参加がありました。



保護者からの感想

毎回、活動が終わった後に、参加して下さった保護者の方に感想を書いていただきました。(抜粋)

1歳2か月の母

このような集まりに初めて参加しました。いろいろな遊びができてよかったです。学生さんが演奏してくれた「はらぺこあおむし」は毎日聞いているので、とても楽しんでいました。

1歳6か月の父

このような会に参加するのが初めてだったのでとても新鮮な気持ちでした。おもちゃもたくさんあって子どもも飽きずに遊んでいました。

1歳9か月の母

お友だちの姿を見ながら、自分もトンネルくぐりやおいもゴロゴロをやってみようとする気持ちが生まれるんだと思いました。

2歳2か月の母

「にこにこに行くよ」と言うと「ボール」「電車」と言って何をして遊ぼうか本人なりに考えるようになってきました。

2歳5か月の母

前回初めてお会いしたお友達に、また会えることができうれしかったです。子どもも慣れてきて大学のお姉さんとも触れ合えてとてもうれしかったです。

2歳9か月の母

久しぶりに参加することができてとても良かったです。普段は話すことのできないママさん方とも交流ができ、よい刺激になりました。手作りのおもちゃも勉強になりました。家でもトライしてみたいです。